

芭蕉元禄事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十七年十二月度 入選句（投稿総数三千六百六句・一般投句数七百五十六句）

特選

天平の色 一枚に柿の里 大垣市 大西 誠一

岐阜特産の富有柿の里、一面に色づいた柿畑を天平の色と感じた、小春日和の穏やかな平和な景色が見える。

襟立ててバス待つ間の日向ぼこ 岐阜市 宮西 美代子

木枯らしの冷たく吹く街に出るためにバスを待つ、せわしく行き交う人や車を見ながら少し陽のあたる場所を選んで遅れてくるバスを待つ人々と「日向ぼこ」穏やかな時間。

細香の漢詩の朱筆冬ぬくし 養老郡養老町 田中 紫香

江戸後期、頼山陽に漢詩を学び郷土大垣の歴史に残る女性「江馬細香」数多く残る墨竹画や漢詩の書に見える朱筆に当時の面影を偲ぶ、季語「冬ぬくし」が適切。

秀逸

叢雲を風が拭ひて冬の月 岐阜市 宮西 美代子

満ち潮に喫水深し冬夕焼 岐阜市 堀江 美州

水琴窟の音がときをり秋時雨 大垣市 安田 直隆

極月の秒針遅々と待合室 大垣市 佐藤 すみ子

乗り継ぎて帰るふるさと初時雨 大垣市 大西 誠一

代々に継がれし椀の雑煮かな 大垣市 安田 むつこ

抱かれて神鈴を振る七五三 大垣市 町野 眞佐子

美濃和紙の仄と彩さす冬灯し 大垣市 伊藤 有紀

相打ちの火花飛び散る鍛冶祭 不破郡垂井町 江崎 真一

裏口を訪ふ気安さや石蓐の花 不破郡垂井町 臼井 梅乃

入選

水脈引きて水門川に鴨遊ぶ
地にありて白鳥の身の重さかな
ぶつかつて裏返る波冬岬
一陣の風の喝采銀杏降る
初冬へ歩幅大きく踏み出せり
飛び石の濡れて千両実をつけし
カラカラと子の追ひつけぬ落葉かな
十二月書き込み多きカレンダー
口下手の挨拶のよき菊日和
止まりたき草の揺れゐて赤とんぼ

大垣市	酒井和美
千葉県松戸市	稲葉豊美
岐阜市	伊藤瑞実
養老郡養老町	田中秀子
京都府城陽市	八田弥須子
大垣市	草野恵子
不破郡垂井町	北村廣美
安八郡神戸町	高橋日出美
大垣市	末守節子
大垣市	鶴田信子

入選

残照に浮ぶ稜線冬近し
鶏旦や煙ひとすじ登窯
雲割りて日矢一点に片時雨
時雨来て旅のひと日を締めけり
数へ日の一日の暇を第九聴く
柗の香によみがへる母の里
紅葉散る千本鳥居の隙間かな
恙なきことが勲章文化の日
子へ送る柿に野の花一握り
梵鐘の余韻幽けき初時雨

大垣市	棚橋みさを
大垣市	伊藤英司
不破郡垂井町	久保田紘義
不破郡垂井町	北村照子
大垣市	神野武彦
愛知県名古屋市	小松とみゑ
京都市右京区	石田江州
兵庫県神戸市	岸下庄二
揖斐郡揖斐川町	栗野みねお
三重県四日市市	後藤允孝

選者吟

図書券の残りし二枚日記買ふ

かつら